

加工・業務用野菜生産者取組状況一覧(令和4年度調査)

青森3 有限会社藤谷園芸

主たる事務所の住所 青森県上北郡六ヶ所村大字倉内字道ノ下1-2

ホームページURL —

担当者名 藤谷 建 電話番号 0175-75-2040

FAX 0175-75-2733 E-mail sp5s57c9@swan.ocn.ne.jp

全作付面積(令和3(2021)年) 16ha(キャベツ10ha、レタス4ha、たまねぎ2ha)

主な施設・機械 冷蔵庫、トラクター、ビニールハウス

主な出荷品目(令和3(2021)年)			
品目名	キャベツ	レタス	たまねぎ
年間出荷量(t)	450	33	9
主な収穫時期	7～12月	7～10月	6～8月
主な取引先	デリカフーズHD(株)、 (株)すかいらくHD、 (株)木村食品工業	デリカフーズHD(株)、 (株)すかいらくHD、 (株)木村食品工業	(株)木村食品工 業、その他



アピール ポイント

連続5期目となるGLOBALG.A.P.認証の取得は、付加価値としてではなく、コストをかけて外部の基準を入れることによって作業内容をデータ化、ルーティン化する気負わないイノベーションとして活用しています。

キャベツ、レタス、はくさい等を中心とした生産体系ですが、新たな輪作作物としてねぎ、たまねぎ、にんじん、だいこんを取り入れ、それらの作物の生産効率を上げるための機械化に取り組んでいます。

加工・業務用、量販店用は主力商品となっており、40店舗の産直販売は少量多品種を目指すことにより、生産物の全量販売ができる仕組みを構築中です。

今後、取り組み たいこと

有限資源であるNPK肥料の削減対策として、動物由来の鶏糞、豚糞、牛糞で加里、リン酸を確保し、植物由来のライ麦で有機物、ヘアリーベッチ(緑肥)で窒素を最大限に利用する栽培体系の構築を考えています。

今、注目のバイオステミュラント(Bio stimulants(生物刺激剤))活用による作物のストレスのない健全なる生育環境の構築を考えています。

新たな作物の一貫体制を構築するため各作目ごとの1,000万円の資金の調達方法を模索しています。